

快適な職場は

「快適な職場づくりのためのチェックポイント」が紹介されている。これは「健康な職場の姿」であると感した。

・あいつがかかわされているか。

・気軽に話せる雰囲気があるか。

・休み時間など、笑い声が聞こえる時もある。

・自分の意見を率直に言える雰囲気がある。

職場の健康

・忙しい時、困難な時に協力しあう雰囲気がある。
・ミスを率直に認める雰囲気
・活気がある。
・職員一人ひとりの役割が、全員に理解されている。
・職員一人ひとりが自分の力を生かしている。
・前向きな姿勢で取り組む職員が多い。

・上司の方針を尊重し目標を達成しようという雰囲気がある。

・「報告・連絡・相談」が浸透している。

・仕事に関する知識・技能を高めようという雰囲気がある。

・仕事に関する必要な情報は、職員各自のところに伝わっている。

「快適な職場づくり」としてのチェックポイントであるが、「役割」と「コミュニケーション」が基本的な事項。結果として「風通しの良い雰囲気」という事がいえよう。

これは、メンタルヘルス対策

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2009年9月14日 (月) N061
地域から明るい未来を作ろう

というより、「使命を積極的に果たそうとする集団」の特性である。逆説的にいえば、「病んでいる職場、集団」では、目標の達成はおぼつかないということである。

そこで働くメンバーのことを、「人である」と認識し、その人の幸福を願う「仕掛け」をこまめにすることである。

西川経営オフィスの商品は「人」だ

バブル破綻後が異常に長い、戦後半世紀経ずに世界第2位を築いたこの日本が、どうしたのでしょうか。立ち直りをことごとく潰したのは、財務省、日銀、米金融機関であった。しかも幾多の景気回復にとどめを刺したのは「小泉平蔵」である。

米の支配

郵政を四分社化「売国政策」を政官タックで行った。

「改革」という「破壊」は「米から日の」改革、アメリカの日本改革だったのです。

これでは中小零細企業や、庶民の暮らしが良くなるはずが

絶対にありません。白山市、小松市、加賀市のシャッター街。それでも過去の利権の幻想を夢に、支持。政治家の程度に比例します。

平成の20年間で日本を敗戦以上に、「国民の精神」を叩きつぶした。本当は所得が2倍になっていたと紺谷典子（こんやふみこ）女史も述べている。幾度と無くあつたチャンスを意識的に財務官僚（旧大蔵省）が潰したのである。官僚主導の政権である限り、米の日本の支配は、実にたやすい。

国民（地域）全体の質がその国の政治の質を決定する。これは、水が低きに流れるのと同じくらい当然の論理である。

元総理が4千票あまりの差で当選した。勝ちも勝ち。しかし、押尾学

「覚醒剤」に係る疑惑に翻弄され、異常なマスコミ

対策がヤケに目に付いた。

また田中氏がスードになつたことを問われている。出演

作は故石井輝男監督「網走番外地」監督で「盲獣」一寸法

楽しい文化

パート2

一書の恩徳 萬玉に勝る一言の教訓 重きこと千金

一日の学問 千載の宝 百年の富貴 一朝の塵

「僅か一日の浅い学問であっても、自分の身につけば永遠の宝となり残るが、百年の年月をかけて蓄積された大

きな財産でも、学問と違つて僅かの間に灰燼に帰してしまふ。意義ある一冊の本から受ける恩徳は、多くの宝玉よりも大きく、師の一言の教訓の貴重さは千金の重さに匹敵する。」というわけで、日々学ぶことの重要性、とりわけ「本を読む」ことの勧めのようだ。人生、自由自在に力一杯生きるには沢山の本を読むこと。それは、人類の聖人、先哲（せんてつ）について学ぶのが最短距離だといふ。